

# 地域おこし協力隊活動報告 2022年7月～9月 横山 雄一

## 1、てしお温泉夕映及び道の駅てしおでの増毛町産さくらんぼ移動販売

てしお温泉夕映および道の駅てしおにて増毛町協力隊からの提案でさくらんぼの移動販売を行った。7/4(月)にてしお温泉夕映で7/11(月)に道の駅てしおにてそれぞれ約100パックを売り上げた。さくらんぼは増毛町協力隊小河氏が営む三橋果樹園から持ち込んだ。



## 2、天塩町観光協会HPコンテンツ追加

天塩町観光協会HPに天塩町の四季を紹介する『知る』というページを設けた。このページでは四季折々に変化する天塩町について紹介しており、旅行者が天塩町の一年を知ることが出来る。

 <h3>春</h3> <p>春はあけぼの。春の朝は氷点下になることも多いですが、日中は暖かく、草花が芽吹く季節になります。</p>	 <h3>夏</h3> <p>夏は夜、夜空を見上げれば満天の星空が望めます。限られた短い夏を謳歌するように草花が咲き誇ります。</p>
<h3>春</h3> <p>天塩町の春は雪融けから始まります。天塩川は解氷を迎え、大きな氷の船が川下へと流れていきます。また本州からシベリアへ送るために天塩川沿線の三日月湖である福寿湖には白鳥やオオシロイの群が飛来し、自然のままの力強い姿を楽しむことができます。この時期は氷点下になることや雪が降ることも多く、まだまだ寒い日が続きます。</p> <p>雪融けが終われば本格的な冬鳥の到来となります。湿地では水芭蕉が咲き、山では行者ニンニク、海では鱧や桜鯛などが多く水揚げされるようになります。幻の淡水魚と呼ばれる「イトワ」は産卵期を迎え、真っ赤な稚魚色に染まります。桜の開花は5月の半ばと全国で最も遅く、耐寒性の強い「蝦夷山桜(大山桜)」が開花します。</p> 	<h3>夏</h3> <p>天塩町の夏の訪れを告げるのは「はまなす」の開花と「シジミ漁」の始まりです。天塩町の町花である、「はまなす」は観音滝公園で見られます。6月～8月頃に淡いピンク色の花(まれに白い花)を付け、8月～10月には赤い果実が生ります。根は染料に、花はお茶に、果実はローズヒップジャムと利用方法が多く、アメの頃から「マラニ」と呼ばれ親しまれてきました。シジミ漁は6月に解禁され、8月末まで続きます。天塩町のシジミは非常に長い年月をかけて大きく育ち、江戸時代には「蝦夷の三絶」として厚岸の牡蠣や十勝川の鮭と共に道外に誇るべき食べ物として珍重されました。今でも漁獲量こそ多くはないものの質の高いシジミが採れるため天塩町の貴重な特産品となっており、毎年7月には「しじみ祭」が開催されています。</p> <p>他にもエゾカンゾク(標置花)やエゾズラン、コウホネなど短い夏の間に多くの草花が咲</p> 

## 3、その他

- ・第7回留萌地域ツーリズム勉強会への参加
- ・国際マナープロトコール研修会への参加
- ・留萌振興局職員研修会対応
- ・その他研修セミナー等への参加等